

一般社団法人川崎市観光協会 令和2年度事業報告

昨年は新年早々から新型コロナウイルスが蔓延し始め、4月には緊急事態宣言が出されるまでになりました。その後も、若干収束の気配は見せながら、さらなる勢いで私たちの生活を脅かし、その結果、恒例の多摩川花火大会や大型イベントが次々と中止となってしまい、誠に残念な年でありました。

まさに一年間を通して新型コロナウイルスに振り回され、観光事業にとっては大変痛手の年となってしまいました。

昨年から延期されております東京オリンピック・パラリンピックも海外からの観客は入れない異例の開催となることが報じられておりますが、ワクチンの接種が進めば明るさも見えてくるのではといくらかの期待もしております。

川崎市においても、「新・かわさき観光振興プラン」により「観光は産業振興の重要な施策」として民間活力にも期待しながら、「賑わいのある、元気な街」を取り戻すための様々な政策の展開が図られています。

当協会でも、新たな川崎の観光の創出を目指して、地域資源を活かした産業観光などについて、引き続き川崎市行政との連携のもとに、観光事業を推進してまいりました。今年度はコロナ禍のなかでウェブ開催とはなりましたが「全国工場夜景サミット」が川崎市を会場として開催されました。

また、市内各地区観光協会との連携、観光事業への協力、市内の各種団体が市内各地で行うイベント等への支援を進め、賑わいのある街を創り出し、活気あふれる川崎市の街づくりに貢献するよう引き続き努めてまいります。

さらに、国内、海外に向けた観光情報の積極的な発信や、他都市の観光協会との連携事業などにより、川崎市内への旅行・観光客の誘致を図り、当協会の会員の力を結集して、元気な街「観光都市かわさき」の発展に取り組むこととします。

I 各種の観光事業を推進する。

1 川崎市制記念多摩川花火大会の開催

秋の花火大会として定着しつつある「川崎市制記念多摩川花火大会」について、対岸の世田谷区たまがわ花火大会と同日開催により、第79回大会を次により行う予定でございましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となりました。

- (1) 主催 川崎市・川崎市観光協会・高津観光協会
- (2) 主管 神奈川新聞社
- (3) 日時 10月3日(土) 午後6時から
- (4) 会場 高津区多摩川河川敷(第三京浜道路と二子橋間の河川敷)
- (5) 花火総数 約6,000発

2 地区観光協会との連携による観光事業の推進

市内の地区観光協会と連携し、地域発の観光事業を進め、また、地区観光協会が地元のガイド団体と共同して取り組む観光関連事業に対して、適切な支援策を講じ、各地区観光協会との連携・協力の強化を図りました。

(1) 第36回住吉さくら祭への支援

住吉観光協会が主催する「住吉ざくら」さくら祭に対して後援し、助成を行いました。

(2) 丸子多摩川観光協会への支援

毎年秋に開催されておりました「丸子の渡し祭り」はコロナウイルス感染症の為中止となりましたが、「丸子の渡し低水護岸完成記念」として関係者による記念行事を行うと共に、これまでの「丸子の渡し」を振り返る映像を「YouTube」により公開されました。

また、第14回新丸子阿波おどりは中止となりましたが、「五十三年ぶりの丸子多摩川花火の試し打ち」に対して支援、協力を行いました。

(3) 多摩区観光協会事業支援

多摩区観光協会が主催、共催して開催されている秋の生田緑地⇔多摩川ピクニックラリーや第5回「食の祭典 in 生田緑地」の一部経費の助成を行いました。

(4) 麻生区観光協会への支援

第9回麻生区観光写真コンクールに川崎市観光協会賞として賞状、賞品を提供しました。

(5) 市内菊花展、菊花大会に対する支援

第68回の「関東川崎菊花大会」は中止となりましたが、川崎大師観光協会をはじめ地区観光協会が主催して開催する菊花展や菊花大会について、支援・協力を行いました。

(6) その他関係団体等への協賛、助成

川崎市長杯還暦・古希軟式野球大会、川崎港トライアスロン大会、川崎美術協会展等への後援、助成を行いました。

3 観光関連ガイド団体との連携による観光事業の推進

(1) 川崎市ガイド団体連絡協議会の運営

川崎市ガイド団体連絡協議会の運営事務局として、毎年エポック中原で総会を開催してまいりましたが、今年度は中止といたしました。次年度以降開催方法について、感染症対策等に配慮したなかでホームページを活用するなど情報交流が図れるように検討してまいります。

(2) ガイド団体活動への支援

市内ガイド団体の概要やガイドルートなどの記事を協会ホームページの観光ガイド団体サイトに掲載し、ガイド活動内容を広くPRすることにより、利用者の利便性を高めるよう努めました。

また、各ガイド団体が主催して行う観光イベントについてもホームページで紹介し、活動を支援しました。

4 観光事業・イベントなどへの後援、協賛

コロナ禍のなかで少なくはなりましたが、市内の各種団体が開催する観光イベント等に対して、後援や協賛を行い、また、協会の媒体を通じて市内外へのPRを行いました。

また、市内に立地する法人が開催する事業についても、観光情報コーナーでの案内チラシの配架などに協力し、市の内外からの観光客の誘致を図りました。

5 産業観光の推進

川崎産業観光振興協議会（学識経験者、関係企業、団体、行政で構成）と連携し、産業観光の推進に取り組みました。

（１）産業観光バスツアーや工場夜景クルーズ事業など定期観光ツアーの実施に協力し、また、地元企業の協力をいただき、新規ツアーの開発に取り組みました。

- 定期観光ツアーは、ほとバスバスツアーは50回開催、延べ1,740人参加、屋形船クルーズは35回開催、延べ1,327人参加
- 産業観光ツアーとして5回開催、130人参加
- 工場夜景9周年を記念して大型船クルーズを5日間開催し、延べ180人が参加
- ジャズの生演奏を聴きながら工場夜景を楽しむ「ジャズクルーズ」を5日間開催、603名参加
- 企業・学校・団体などによるバス、屋形船による工場夜景チャーターツアーを21回開催、延べ572人参加

（２）産業観光のPR、他都市との連携を図り、産業観光のマーケットの拡大に努めました。

（３）産業観光ガイドの養成として3年ぶりに川崎検定合格者を対象に「第8回ガイド養成講座」を開催しました。

（４）北海道、中国、九州、関西地方の大手旅行代理店42社を訪問し、川崎市への修学旅行誘致PRを行いました。

II 観光情報の効果的な提供を行う。

1 観光情報発信機能の拡充

協会ホームページ「川崎日和り」の適切な運用を図り、外国語観光情報サイト「Discover Kawasaki」（英語・中国語・韓国語）の記事について、インターネットを利用した市内観光情報の発信に努めました。

2 情報発信に向けた関連団体等との協力

川崎市、川崎商工会議所、民間関連団体の協力を得て、食事、宿泊、行楽など各種の観光情報について、最新の情報提供に努めました。

3 川崎駅北口行政サービス施設「かわさききたテラス」の運営

川崎市内の観光情報等を提供するため、観光案内所の運営を川崎市と共同して実施しました。また、観光案内情報やイベント情報の提供を行う観光情報コーナー、観光情報スポットの運営も行いました。

(1) 観光案内所

- ・場 所 川崎駅北口行政サービス施設「かわさき きたテラス」内
- ・運営時間 平日：9時から20時まで
土・日・祝日：9時から19時まで
- ・運営体制 常時2名以上（英語・中国語対応可）
- ・運 営 日 原則として年中無休
- ・従 事 者 川崎市との契約による人材派遣会社の派遣職員

(2) 観光情報コーナー

- ・場 所 J R川崎駅中央通路
- ・運営時間 8時から21時まで
- ・運営体制 無人
- ・運 営 日 年中無休

4 観光案内所などの外国語対応

外国人観光客に対する観光案内環境の整備について、川崎市による観光案内所の移転に合わせ、英語及び中国語で対応できる従事員（コンシェルジュ）が配置されました。

また、観光案内所や観光情報コーナーに、英語版及び中国語簡体字版の観光ガイドブック「川崎日和り」、英語・中国語・韓国語・タイ語の多言語版の観光パンフレット「Travel Guidebook」を配架するなど、外国語の観光案内情報の提供を行いました。

5 情報誌と連携した広報活動

外部の観光情報誌への掲載によるPRを促進するため、川崎の観光情報や写真の提供を行いました。

6 川崎のお土産品の情報提供

(1) 「かわさき名産品」認定品の普及・宣伝

かわさき名産品認定事業実行委員会（川崎市、川崎商工会議所、川崎市観光協会、関係団体で構成）が認定した「かわさき名産品」の知名度を高め、販路の拡大に結びつくよう、かわさき きたテラスでの受託販売を行いました。

(2) 地元のお土産品の情報提供

川崎の歴史や産業と結びついた川崎のお土産品について、観光産業の振興に向けて、問い合わせへの優先紹介などを行い、普及・宣伝に努めました。

(3) 川崎大師のお土産情報

年間1千万人を超える参詣客が訪れる川崎大師界限のお土産品についても、若い世代を含めた新しい来街者の増加につながるよう情報提供に努めました。

III 観光誘客事業を強化する。

1 市外からの観光誘客作戦の展開

神奈川集中観光キャンペーン実行委員会が制作している「KURUPPU」への記事掲載

を行うなど情報提供に努めました。

また、「県外誘客宣伝事業」（県外観光キャンペーン）において、さいたま市方面を中心に展開している地元フリーペーパー「たまログ」へ川崎の観光紹介記事を2回掲載しました。さらに、感染防止グッズとして作成いたしました「除菌ハンディウエットティッシュ」を観光情報コーナーで配布いたしました。

2 国内・海外都市との観光交流事業の推進

川崎の魅力を発信し、市民の観光交流を促進するため、鳥取県米子市、富山県氷見市と観光情報の提供や観光イベント事業への参加など観光交流を計画しておりましたが、残念ながら開催することはできませんでした。

また、川崎市との事業連携締結自治体である大田区との観光分野での交流・連携事業を進める「大田区・川崎市観光まちづくり連携事業実行委員会」につきましても、開催されませんでした。

3 第64回川崎市観光写真コンクールの開催

「観光のまち・かわさき」の宣伝素材として活用するため、公募による観光写真コンクールを川崎市と協同で実施しました。

① 作品募集期間

令和2年11月～令和3年1月の3か月間

② 応募点数

（ア）一般の部169名、400点（昨年185名、448点）

（イ）児童・生徒の部22名、51点（昨年37名、75点）

③ 表彰式の開催 令和3年3月25日（木）東海道かわさき宿交流館

4 「東海道かわさき宿交流館」の指定管理業務

指定管理者として引き続き交流館館長を当協会から派遣すると共に同館の自主事業の企画・実施も行いました。

5 伝統的な日本文化振興への取組み

第45回「川崎大師薪能」については、新型コロナウイルス感染症のため中止となりました。

IV 適正な法人運営に努める。

1 事務事業の再構築と財政基盤の強化

（1）事務事業の見直し

観光人材の育成、観光資源の発掘、産業観光の商品化等の観光課題、訪日観光客に対応する基盤整備など条件整備について検討を進めました。

（2）自主財源の拡充

前年度に比べ、広告料、産業観光等の企画監修料など自主財源は若干増収とはなっているものの、全体としては減収していることから新たな財源確保のためふるさと納税等への参画について検討しました。

(3) 会員の加入促進

協会ホームページバナー広告の割引などとともに、法人会員が実施するイベント事業への協賛、問い合わせに対する優先紹介を行うなどの会員サービスを行い、会員数の増加に努めました。

2 法人会議の開催

(1) 社員総会の開催

新型コロナウイルス感染症の蔓延の為、「書面表決」により開催いたしました。

(2) 理事会の開催

3月5日(木)開催の理事会で令和2年度事業計画・予算等についてご審議いただき、5月には総会決議事項であります事業報告、収支決算等についてご審議いただく予定でしたが、コロナの為「書面表決」の開催となりました。

(3) 監事監査への協力

4月28日(火)に川崎市産業振興会館において、尾木、浦野両監事による平成元年度の事業内容及び会計に関する監査を行っていただき、いずれも適正であるとの報告をいただきました。

3 予算要望活動の実施

地区観光協会等の要望を取りまとめたうえ、川崎市議会各党派(自民党、公明党、みらい)へ予算要望を行いました。今年度は対面での要望ではなく要望書の提出のみの形となりました。

● 主な要望事項(新規4件、継続8件)

- ・ 市政100周年記念事業花火大会の開催について
- ・ 御幸公園の魅力向上について
- ・ 橘地区の歴史的資源の利活用について
- ・ 大型観光バスの駐車施設について 他

4 大都市観光協会連絡協議会への参加等

東京都及び政令指定都市の観光協会やコンベンション協会等の法人で構成する「大都市観光協会連絡協議会」に引き続き参加し、観光課題への対応や協会の組織運営などについて当協会の事務局運営に反映するよう努めました。

また、公益財団法人日本観光振興協会から観光事例や観光情報を収集し、協会事業の立案等への活用に努めました。